

CASE_2

大家族と一緒に暮らす 生活感を大切にした 「完全同居型」の住まい

- 金沢市Kさんのお宅
- 設計 BGM建築設計
- 施工 (有)馬場建設



金沢市の郊外で居酒屋を営むKさんご一家。これまで店舗隣の木造2階建ての住まいで生活してきたが、4部屋に台所という家は二世帯が暮らすにはあまりに狭く、お世辞にも快適とは言えない住環境だったそう。そこで老朽化した住まいを建て替えることに。

設計を依頼したのは、BGM建築設計。シンプルなデザインの中に個性が引き立つ総2階の住まいを得意とする建築スタイルが、Kさんが求めていた新居のイメージとマッチしたそう。Kさんが新しい住まいに求めたのは、



シンボリックな真っ赤な格子戸を開けると、その奥が玄関。格子戸を閉めておけば、玄関を開けっ放しにしても防犯的にも問題ない。

太陽の光がさんさんと注ぐ明るい住空間と茶屋のような格子戸、そして家族そろってゆったり食事が楽しめる広々としたLDK。「家族とは言え、プライバシーは必要ですが、そればかりになつてしまうと、二世帯で暮らす意味がないように感じます。できるだけ家族と一緒にいられる家にしたかったんです」とKさん。

2階にリビングを設け、南側の壁の大半を窓にした設計は、Kさんのイメージをそのまま形にしたもの。「施主の要望がスッキリしたので、デザインしすぎずに素直に設計しました。リビングの窓も、感覚的には「透明な壁」に近いものがありますね」とBGM建築設計の馬場さん。二世帯住宅のプランニングでは生活音が問題視されるが、K邸はLDKの真下が親世帯の部屋。「しゃ音の要望があれば、しゃ音シートなどの施工をしますが、K邸では特別な施工はしていません。しゃ音シートで音を防ぐより、家族を思いやる気持ち、気遣う気持ちを子供のころから育むことが大切ではないでしょうか。家族の中にもルールはあると思うんです」と馬場さん。

モダンなデザインの外観が印象的なK邸だが、生活感あふれる住空間には、大家族で暮らすことが当たり前だった。昭和の香り、が今も残っている。

南側の壁一面の大きな開口部と最大3mの天井高により、明るく開放的なリビング。梁はペイマツを使用。Kさんはこの開放的な雰囲気を見て部屋を南欧風にすることを思い付いたそう。





ビビットな朱色の格子戸がシンボリックなK邸の外観。この赤色がより映えるよう、濃いグレーの外壁の色を選んだそう。

POINT 3

いざとなった時にはエレベーターも設置可

エレベーターを設置してしまうと、両親もそれに頼ってしまうので、健康も考え、階段の上り下りができる間は、エレベーターを付けないようにしました。(ご主人)



玄関横の納戸は、ご両親が将来階段の上り下りが辛くなった時でも2階のリビングに行けるようホームエレベーターが設置できるスペースとして設けた。

POINT 4

大きな窓を設けることで上り下りを楽しむ階段

階段の踊り場の窓は、足腰の弱ったおばあちゃんが階段を上り下りする時のおっくうさを和らげ、少しでも気持ちよく使ってもらえるよう、設計しました。(設計士)



階段の踊り場には大きなFIX窓を設置。後ろに民家などがないことから、カーテンなども付けずに風景を一枚の絵のように楽しむことができる。

POINT 5

子供がこもりきりにならない子供室に

子供が子供室にこもらないように、子供室は勉強できて、寝られる最小限のスペースがあれば十分と、我が家では考えました。(ご主人)



LDKに面する子供室にはロフトを設置。この空間が子供にはたまらないらしく、以前の家に比べて子供が友達を連れてくる機会も増えたそうだ。

リビングや子供室、ロフトが見渡せるキッチン。その横には子世帯専用のサンルームがつながる。



Kさん夫妻の寝室。仕事柄、夜遅いKさんが日中でもぐっすりと休めるよう、子供室側に収納(子供室のロフトは寝室側に収納)を設けてしゃ音効果を高めている。

DATA

- 家族構成 祖父(68歳)、祖母(74歳)、夫(33歳)、妻(33歳)、長男(10歳)、二男(8歳)、三男(3歳)、長女(3カ月)
- 敷地面積 193.11㎡ (58.41坪)
- 床面積 176.64㎡ (53.43坪)
- 1階床面積 91.63㎡ (27.72坪)
- 2階床面積 85.01㎡ (25.71坪)
- 構造 木造在来工法 ● 竣工 2005年7月
- 建ぺい率 50% ● 容積率 100%
- 設計 BGM建築設計
- ☎ 076-248-2040
- URL <http://www2.ocn.ne.jp/vava/>
- 施工 (有) 馬場建設



親世帯 子世帯 共有



1階に設けた両親の寢室。小上がりの畳スペースの下は引き出し式の収納スペースとなっている。部屋には両親専用の納戸もあり、収納力は十分。左奥は専用のサンルーム。



POINT

両親が生活感を失わないためにサンルームはあえて専用の空間を用意

家事全般は家内がしますが、「身の回りのことは自分でできる」という母親の気持ちを尊重して、洗濯ができるサンルームは別に設けました。(ご主人)

両親の寢室につながる専用のサンルーム。完全同居型の二世帯住宅にあって、このサンルームのみ両世帯専用のスペースを設けた。



POINT

庇と間取りで、太陽の光をコントロール

LDK部分は庇を長くして、夏場の日差しをカット。一方、サンルームは庇から飛び出る形で窓を設け常に日光が当たるように設計しました。(設計士)

開口部を最小限に抑えた正面に対して、南側はほぼ全面を窓が覆う開放的な造り。庇を長くし、直射日光を遮っている。



本格和室の障子壁をモチーフにした二間続きの和室。3枚引き戸により空間を分割できる。また、床から天井までを覆うサッシは、既製品としては最大の高さ2370ミリのものを使用した。